

第5期 (2018~2020年度) 事業計画

1. 第5期達成目標

中部地方の協働・ESD・SDGsの活動支援に資するツールとシステムを構築し、活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策を確立します。

2. 方針

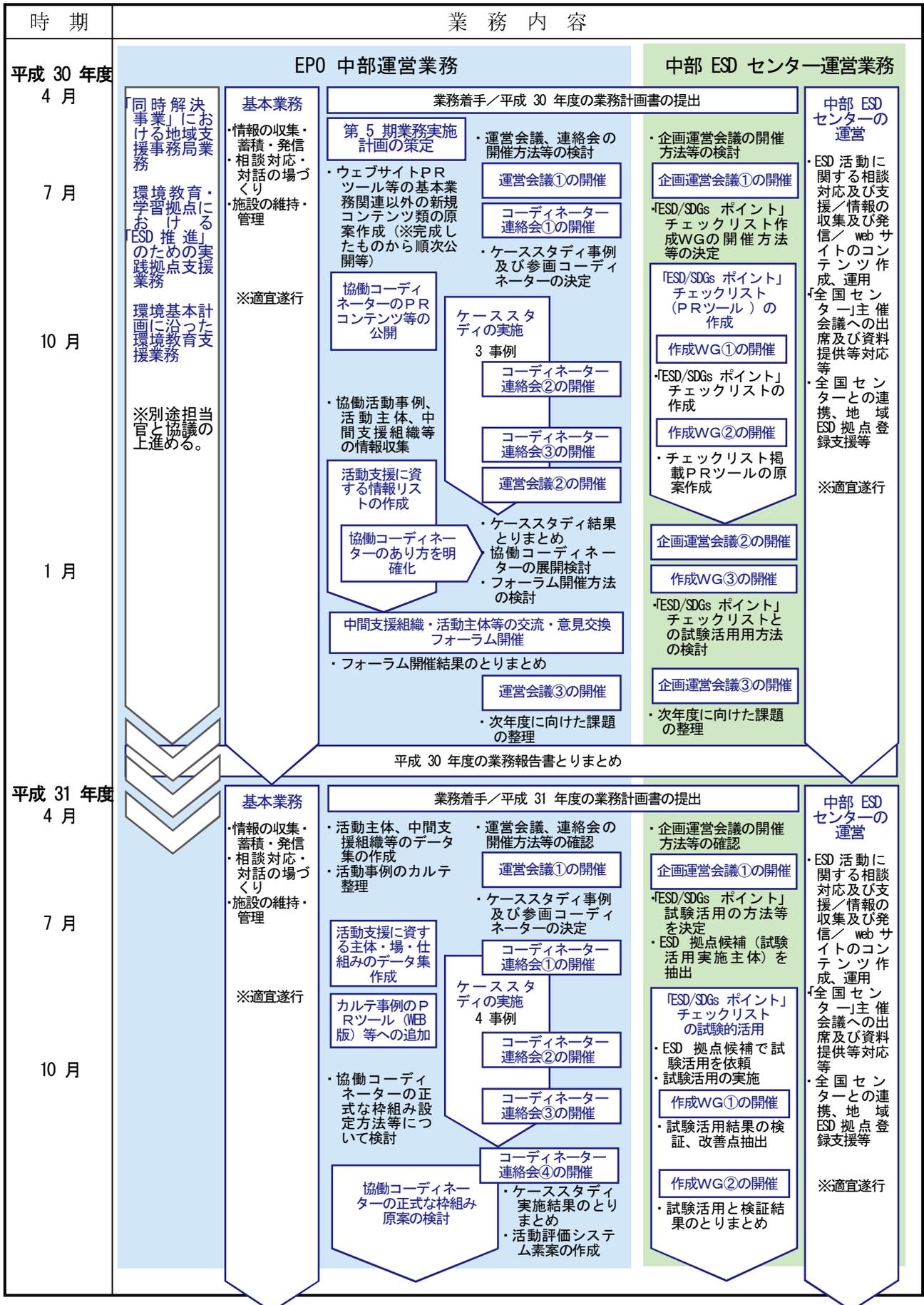
- ESD/SDGsの意義とビジョン及びEPO中部の役割等、協働促進のための情報発信を継続的にを行います。
- EPO中部独自の協働・ESD・SDGsの活動支援ツール・システムとなる
 - ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用
 - ② 「活動評価システム(活動効果やSDGs要素を可視化するシステム)」の構築・検証
 - ③ 「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開
 - ④ 「ESD/SDGsポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用
 に「動機付け」と「見える化」を視点として取組みます。
 (各業務の「方針」または「目標」で該当するものについては、丸番号を末尾《 》内に記載。)
- 地域づくり活動に対する活動主体や中間支援組織等のニーズや課題を抽出する機会・場づくりを行い、ニーズ・課題等をEPO中部の業務へフィードバックします。

3. 3か年度(2018年度~2020年度)の目標、方針、事業

目標	第4期までのEPO中部の蓄積を引き継ぎ、活用しながら、中部における協働促進のための拠点であるEPO中部のプレゼンス(存在感)を確保します。	
	方針	事業
平成30(2018)年度	● 従来の情報収集・情報発信に加えて、協働による取組みの効果・利点がアピールされる情報発信に取り組めます。	・ 活動団体・活動事例及び協働コーディネーターの紹介・PRのためのコンテンツ・ツール(WEB及び印刷物)の作成。(※平成30年のみでなく第5期3年間継続して活動事例収集とPRコンテンツを作成・公開。) ・ 活動団体等の取組みやお知らせが関係者以外にも広く認知されるよう、SNSなどの情報発信の展開方法について検討。
	● 協働コーディネーターを活用し、活動・協働の評価システム構築の素材・要素の抽出につなげるケーススタディを展開します。《②③》	・ 協働コーディネーターを活用したケーススタディを実施(※平成30・31年度の2年間で実施。)
	● 協働・ESD活動の支援に資する、中間支援組織などの主体、場、仕組み(制度)の把握を行います。《①》	・ 中間支援組織など活動支援に資する主体・場・仕組みの把握(リスト化を前提)。
	● その他	・ 協働、ESD・SDGsに関連する活動主体や中間支援組織、協働コーディネーター及びEPO中部による交流と意見交換を目的としたフォーラムの開催。

平成31 (2019) 年度	目標	中部における協働とESD及びSDGsの活動の拠り所、ポータルサイトとしての「EPO中部」「中部ESDセンター」の有用性を確立します。	
		方針	事業
		●先進事例や中間支援組織など、協働及び、ESD・SDGsの取組みの活動支援に資するデータ集を作成し、その活用のための仕組みづくりを行います。《①》	・平成30年度に作成した中間支援組織等のリストをもとに、ESD・SDGs活動支援に資するデータ集の作成とそのデータベース化（関係団体・機関等の活用も念頭に）。
		●EPO中部の協働コーディネーターの正式な位置づけを明確化し、その体制整備の準備を進めます。《③》	・協働コーディネーターの展開方策を決定し、その実現化に向けた原案づくりやスケジュール・計画等立案。
		●協働・SDGsの活動評価システム構築を目的としたケーススタディを展開し、評価方法やシステム構築方法等についての調査・研究を行います。《②》	・ケーススタディを継続実施すると共に、協働コーディネーター参画のもと、協働・SDGsの活動評価システム構築に向けたケーススタディの検証作業を実施。
	●その他	・地域づくり活動における支援ニーズや課題の抽出を目的とした「協働とESD・SDGs活動の効果・利点、及び、その“見える化”」をテーマにしたフォーラムを開催。	
平成32 (2020) 年度	目標	協働・ESD活動の質と量を拡充するEPO中部の体制と機能確立するため、活動支援と活動効果の明示化につながるシステムを構築します。	
		方針	事業
		●協働・ESD・SDGsの活動評価システムを構築・公開します。《②》	・平成31年度のケーススタディ検証結果をもとに、協働・ESD・SDGsの活動評価システムを構築。
		●「EPO中部・協働コーディネーター」を正式な位置づけに基づく体制を発足させます。《③》	・協働コーディネーターをEPO中部として展開していくための体制等を構築・発足等し、公表。
	●活動評価システムの完成、協働コーディネーター正式発足をお披露目するフォーラムを開催します。《②③》	・協働・ESD・SDGsの活動評価システムと「EPO中部・協働コーディネーター」の正式稼働、完成等をPRするフォーラムを開催。 ・フォーラムでは、活動評価システム体験会も併催。	

4. 業務フロー



時 期	業 務 内 容	
平成 31 年度 1 月	<p style="text-align: center;">EPO 中部運營業務</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>基本業務</p> <p>※適宜遂行</p> </div> <div style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーターの正式な枠組み原案の検討 協働コーディネーター連絡会の検討結果など検討材料のとりまとめ フォーラム開催の企画検討 協働コーディネーターとの交流フォーラム開催 フォーラム開催結果のとりまとめ 運営会議③の開催 次年度に向けた課題の整理 </div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの試験的活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの修正版原案の作成 <p>企画運営会議②の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けた課題の整理 </div> <div style="width: 15%;"> <p>中部 ESD センター運營業務</p> <p>中部 ESD センターの運営</p> <p>※適宜遂行</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">中部 ESD センター運營業務</p>
平成 31 年度の業務報告書とりまとめ		
平成 32 年度 4 月 7 月 10 月 1 月	<p style="text-align: center;">業務着手／平成 32 年度の業務計画書の提出</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>基本業務</p> <p>・情報の収集・蓄積・発信 ・相談対応・対話の場づくり ・施設の維持・管理</p> <p>※適宜遂行</p> </div> <div style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーターの位置づけ等を正式に決定 協働コーディネーターの正式な位置づけのための作業 活動評価システム構築作業 協働・SDGs 活動評価システムの完成に向けて作業を継続 協働取組み方モデルの作成 中間支援組織に対するニーズの抽出・整理 活動団体に提示する協働の取組み方モデルの検討 活動効果の見える化フォーラムの開催 (活動評価システムと協働コーディネーター制度の発表) フォーラム開催結果のとりまとめ 運営会議③の開催 第 6 期展開に向けた課題の整理 </div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>企画運営会議の開催方法等の確認</p> <p>企画運営会議①の開催</p> <p>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用方法についての検討</p> <p>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの完成</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験活用主体等に対し「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用と ESD 拠点登録の呼びかけ <p>企画運営会議②の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> チェックリスト活用をPRするシンポジウム開催の企画検討 <p>中部 ESD 拠点シンポジウムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> シンポジウム開催結果のとりまとめ <p>企画運営会議③の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けた課題の整理 </div> <div style="width: 15%;"> <p>中部 ESD センター運營業務</p> <p>中部 ESD センターの運営</p> <p>・ESD 活動に関する相談対応及び支援／情報の収集及び発信／web サイトのコンテンツ作成、運用</p> <p>・全国センター主催会議への出席及び資料提供等対応等</p> <p>・全国センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等</p> <p>※適宜遂行</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">中部 ESD センター運營業務</p>
平成 32 年度（第 5 期）の業務報告書とりまとめ		

5. 主な取組の3か年実施展開案

① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用

- 協働・ESD・SDGs 活動の活動支援につながるデータ集・事例集を作成、公開し、その活用のあり方について検討を行います。
- 事例（EPO 中部で蓄積された事例等）については、活動主体が中間支援組織に求めるニーズを分析するためのサンプルとしても活用し、活動主体側・中間支援組織側の両者間のニーズの適合が図られるツールづくりを目指します。

【概要】

- 中部における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながるデータ（主体・場・仕組み（制度））についての情報と整理を行い、EPO 中部と中間支援組織等にとっての有用な情報提供ツールを作成します。
- 第4期までに EPO 中部が集積した中間支援組織の関わる事例等を、中間支援組織側・活動主体側・その他行政等側のそれぞれの観点から提供した・された資源・ノウハウ・業務等を中部地方の「協働」の取組み事例として整理し、PRツール（ウェブサイト含む）等で紹介・公開します。
- 収集した事例をカルテ形式に整理するなどして、活動団体側が中間支援組織に対し求めているニーズの抽出を行い、活動団体が中間支援組織を活用した（中間支援組織が十分に活用される）協働の取組み方のモデル（基本的フロー／理想的モデルなど）を提示します。

【業務の進め方】

- 平成30年度は、中部における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながるデータ（主体・場・仕組み（制度）など）にどのようなものがあるか検討・抽出し、該当する情報の収集とその整理に取組みます。
- 平成31年度は、収集した情報が、EPO 中部と中間支援組織等にとっての有用な情報として提供できるよう、提供方法やツールのあり方などについて検討し、公開・活用が可能なデータ集としてのとりまとめを行います。
- また、第4期までに集積された事例を含め、EPO 中部で蓄積されてきた事例を整理し、中間支援組織側・活動主体側・その他行政側等の主体それぞれの観点から提供した・された資源・ノウハウ・業務等はどのような内容であったかカルテ形式などの形で整理します。
- 平成32年度には、事例カルテをもとに、活動団体側が中間支援組織に対し求めているニーズについて整理・分析を行い、協働の取組み方のモデル（基本的フロー／理想的モデルなど）を活動主体や中間支援組織など関連主体に提示します。

② 「活動評価システム（活動効果や SDGs 要素を可視化するシステム）」の構築・検証

- 協働の活動効果や「ESD」「SDGs」との関連性を可視化、明確化することを目的とした活動評価のシステム（仕組み）として、協働コーディネーターのファシリテーション能力を活用した EPO 中部独自のワーキング・プログラムづくりに取組みます。
- 取組みにあたっては、協働コーディネーター連絡会（以下「連絡会」）を設置し、協働コーディネーターの参画によるケーススタディを実施するなどして、必要な要素の抽出・蓄積・整理等を行います。

【概要】

- 「協働及び ESD/SDGs の活動評価システム」は、地域づくり活動の協働による活動効果や、その活動と ESD・SDGs 要素との関連性を可視化するワークショップ等を行う活動支援プログラムとなることを想定しています。
- プログラムづくりにあたっては、協働コーディネーターの参画によって事例を選定し、その事

例の活動者を対象にしたプログラムの試行的実践を通して「協働」「ESD」「SDGs」要素を抽出し、検証等までを行うケーススタディを実施します。

【業務の進め方】

- 平成 30 年度は、「EPO 中部運営会議」「連絡会」への「協働及び ESD/SDGs の活動評価システム」に関する諮問を行った上で、協働コーディネーターと共にケーススタディの実施対象団体（活動）を抽出する検討を行い、実際に、協働コーディネーターのファシリテーション能力を活用したプログラムによるケーススタディを実施していきます。
- 平成 31 年度も引き続きケーススタディを実施し、併行して、2 か年度間に実施したケーススタディの検証結果をもとにした活動評価システム構築のための検討材料の整理を行います。
- 協働コーディネーターは、事例の選定や、ファシリテーターとしてのプログラムの試行的実践などに参画し、「連絡会」の場などで、活動評価に必要な素材の抽出・整理の方法、プログラムの内容等について検討を積み重ねます。
- 平成 32 年度は、活動評価システムを完成させて、ESD・SDGs の活動主体や中間支援組織を対象にした「活動効果の見える化」をテーマにしたフォーラムを開催し、その場でシステム完成を公表・紹介します。

③ 「EPO 中部・協働コーディネーター」の活用展開

- EPO 中部の協働コーディネーターとして、第 5 期以降も活躍していただき、EPO 中部として協働コーディネーターの存在を PR し、地域づくり団体等へ広く紹介していくため、「EPO 中部・協働コーディネーター」のあり方を改めて明確な形に位置づける検討を行います。
- 併行して、協働コーディネーターの紹介・PR ツールを作成、活用するなどして、中部地方の様々な活動において、協働コーディネーターが参画活用される機会づくり・素地づくりも進めます。

【概要】

- 第 4 期 EPO 中部で活躍した協働コーディネーターを今後も継続して活用展開していくため、第 5 期では協働コーディネーターの EPO 中部としての位置づけ、あり方等を明確化し、今後の展開方策について検討を行う共に、必要なシステム（体制・体系・制度等）の整備を行います。
- 協働コーディネーターのあり方等については、「EPO 中部運営会議」を中心に検討を進めます。
- また、協働コーディネーターの活動実績・活動意義・ノウハウ等を蓄積・共有していくことを目的に、第 5 期では「連絡会」を設置、開催し、連絡会においても協働コーディネーターのあり方、展開の方向性について議論し、ここで提示された意見等を EPO 中部運営会議に諮問します。

【業務の進め方】

- 平成 30 年度は、「EPO 中部運営会議」への諮問と「連絡会」での議論を重ね、EPO 中部にとっての協働コーディネーターの位置づけやあり方、展開の方策について検討し、方向性を決定していきます。
- また、それに併行して、協働コーディネーターの紹介・PR ツールを平成 30 年度に作成し、公開・頒布するなどして、「EPO 中部・協働コーディネーター」が存在することを広くアピールすると共に、中部地方の地域づくり活動で協働コーディネーターが参画活用される機会の創出・向上を目指した活用を行っていきます。
- 平成 31 年度は、「EPO 中部運営会議」と「連絡会」での検討をもとに、平成 30 年度の検討結果を具体化するための原案づくり、計画立案等に取り組めます。
- 平成 32 年度は、平成 31 年度で策定した原案、計画に基づき、その実現化のために必要な手続きや作業等を行い、正式な発足、或いは制度化、稼働を開始し、その公表を行います。

- 公表の際には、活動団体等が前述の「活動評価システム」を体験しつつ、協働コーディネーターとも交流する機会となるプログラムを盛り込むなどしたフォーラムを開催します。

④ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用

- 地域 ESD 拠点や地域活動者による活用ツールとなる「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）を作成します。
- チェックリストによって、活動主体が「ESD」「SDGs」と活動との関連性を認識し、地域 ESD 拠点への登録の誘引ツールとなるよう活用します。

【概要】

- 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）は、活動者等が自記入式等で自分たちの活動等に関する設問等の簡易なチェック項目に回答していくことによって「ESD/SDGs ポイント」を積算し、自分たちの活動と「ESD」「SDGs」との関連性をポイントで明示していく仕組みとなることを想定しています。
- PR ツール（ESD センターの取組成果と中部の ESD/SDGs 活動の PR ツール）と併せて掲載や配布等して、「ESD」「SDGs」の認知度向上と取組みとの関連性を改めて認識し、地域 ESD 拠点への登録促進を図るためのツールとして活用されることを目指します。

【業務の進め方】

- 平成 30 年度は、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの項目作成にあたり、専門家等による作成WGを設置して、項目の抽出、リストの作成に取り組みます。
- 併行して、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの掲載や併用を前提に、PR ツール（上記）を作成します。
- 平成 31 年度では、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用主体として想定される、自治体や教育機関等の地域 ESD 拠点候補をリストアップし、その拠点候補の協力を得て、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストを試験的に活用してもらい、ESD 拠点の使用ツールとしての有用性についての検証を行います。
- 同時に、拠点候補に対し、「ESD/SDGs ポイント」の活用と共に、地域 ESD 拠点への登録促進を図ります。
- 平成 32 年度は、検証結果をもとに「ESD/SDGs ポイント」チェックリストを改善し、ツールとして完成させると共に、地域 ESD 拠点や活動主体等を対象にした、「ESD/SDGs ポイント」の活用と地域 ESD 拠点登録の呼びかけを目的としたシンポジウムを開催します。

第5期3か年におけるEPO中部独自の協働・ESD・SDGsの活動支援ツール・システムの作成・構築の進め方



年度目標 第4期までのEPO中部の蓄積を引き継ぎ、活用しながら、中部における協働促進のための拠点であるEPO中部のプレゼンス(存在感)を確保します。

(1) 業務実施計画の作成及び公表

事務 平成30年度業務実施計画、及び第5期事業目標・事業計画の作成・公表

(3) 基本業務

事務 HP更新、メルマガ発行
事務 照会・相談対応、対話の体制の構築、施設の維持管理
ツール 第5期リーフレット作成

(2) 運営会議の設置・開催

会議 運営・開催

ESD 運営会議

EPO 運営会議

(4) 協働取組の促進のための業務

ツール 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用
ツール 協働コーディネーターのPRツールの作成
会議 協働コーディネーター連絡会の開催
取組 協働コーディネーターのあり方の検討
取組 活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)
催事 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催
催事 協働取組促進のためのワークショップの実施

(5) ESD 活動支援センター運営業務

ツール PR ツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開
取組 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト(仮称)の作成
会議 チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催
催事 ESD 推進のためのダイアログ(対話の場)の開催
催事 ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催
事務 全国ESDセンターへの対応、地域ESD拠点登録支援等

(6) 「同時解決事業」における地域支援事務局業務

※同時解決事業：持続可能な開発目標(SDGs)をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

同時解決事業の地域支援事務局として以下の業務を行い、持続可能な社会に向け環境課題とその他の社会課題の同時解決に資する協働モデルの創出を目指す。(平成25・29年度「加速化事業」の支援事務局業務のプロセスに準ずる。)

事務 審査委員会の支援、採択団体及び審査委員との連携
会議 採択団体及び審査委員との連絡会の開催
取組 採択団体の伴走支援
事務 環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応、関連会議等への出席、資料作成対応、加速化事業採択案件に対する照会等対応

(7) 環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援業務

※継続業務

地域の環境教育・学習拠点の教育機能向上とESD推進、地域コミュニティの持続的成長の促進を目的に、支援対象3拠点へのフォローアップを軸に、全国事務局と連携して業務を行う。(平成28・29年度業務との整合性確保に要留意。)

【支援対象拠点】
 ・揖斐川流域環境学習拠点等連携事業
 ・高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業
 ・泰阜ひとねる大学

取組 支援対象拠点1拠点への伴走支援
会議 支援対象拠点との連絡会の開催、プラットフォーム会議及び評価会議の開催
事務 全国事務局からの定期報告提出、照会等対応、作業部会出席、成果共有会の発表者選定と資料作成対応
事務 アドバイザー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有

(8) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

第五次環境基本計画を踏まえ、中部地域の自治体又は環境学習施設等と連携し、SDGsに対する理解促進と、様々な主体による自主的なSDGsの普及啓発、学習活動等が行われることを目的とした業務を行う。(支援対象地域の中間支援団体との協働により実施する。)

【協働主体】 とやま環境市民プラットフォーム

取組 対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握
催事 対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催
取組 勉強会参加者への事後調査

(11) 外部資金を活用した事業 ※いずれも前期実施事業

○グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト **【発注主体】** 日本NPOセンター
【対象主体】 愛知：森の学び舎自然学校／長野：やまぼうし自然学校
 福井：検討中
 ○地球環境基金 **【発注主体】** 環境再生保全機構
 ○愛知県コーディネート業務 **【発注主体】** 愛知県

第5期目標

中部地方の協働・ESD・SDGsの活動支援に資するツールとシステムと構築し、活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策を確立します。

環境省中部地方環境事務所

全国ESDC

平成30年度（2018年度）業務スケジュール表

仕様書業務項目		業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	業務実施計画の作成及び公表	1-1 第5期事業目標・事業計画の作成	富田	作成	■エ・◆イ①運営会議への提示	修正等→公開										
		1-2 平成30年度業務実施計画の作成	富田			リーフレットへ反映										
※■エ：EPO中部運営会議／※◆イ：中部ESD企画運営会議の略 ※★コ：協働コーディネーター連絡会の略 ※丸数字：第○回																
2	運営会議の設置・開催	2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【3回開催】	富田、原、清本	調整等	■第①回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	調整等		■第②回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開		調整等		■第③回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	
		2-2 中部ESD企画運営会議の開催・運営【3回開催】	富田、原、清本	調整等	◆第①回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	調整等		◆第②回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開		調整等		◆第③回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	
3	基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	富田	前期までのフォーマット等に則り、月2回以上の更新を適宜実施												
		3-2 メールマガジンの作成・発行	富田	前期までのフォーマット等に則り、月1回以上の配信を適宜実施												
		3-3 リーフレットの作成・配布	富田、原	構成案等を作成	◆エ①運営	第5期計画を掲載した原稿作成	印刷→完成・公開									
		3-4 照会・相談対応	富田、原、清本	適宜実施し、記録及び報告												
		3-5 対話の体制の構築	富田、原、清本	適宜実施し、記録及び報告												
		3-6 施設の維持・管理	富田、原、清本	適宜実施												
(7月期) 全業務の簡易報告書提出 (10月期) 全業務の簡易報告書提出 (1月期) 全業務の簡易報告書提出																
実施・対応結果等とりまとめ (全業務の年間報告書の提出)																
4	協働取組の促進のための業務	4-1 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	富田	構成案等を作成												
		4-2 協働コーディネーター連絡会の開催【3回開催】	富田、原	調整等	★第①回コーディネーター連絡会開催	コーディネーターの展開方法、今後のあり方についての意見等の整理など										
		4-3 協働コーディネーターのあり方の検討	富田、原	検討方法の提示案等作成												
		4-4 協働コーディネーターのPRツールの作成	富田、原	構成概要等を作成	■エ①運営会議に諮る	コーディネーターへのヒアリング取材・ケーススタディ取材→原稿作成										
		4-5 活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)【北陸・東海・長野から各1事例以上】	原、富田	実施企画案等を作成	★①コーディネーター連絡会に提示	ケーススタディ実施に向けた調整	ケーススタディ実施									
		4-6 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	富田、原	各開催概要案等を作成		調整・準備	フォーラム1開催	調整・準備	フォーラム2開催	調整・準備	フォーラム3開催	調整・準備	WS開催	開催結果※		
		4-7 協働取組促進のためのワークショップの実施【1回開催】	富田、原			※各フォーラム、ワークショップでは参加者アンケートを実施後、集計とりまとめ										
データ収集・整理(リスト化) 収集情報の活用方法・発信方法等の検討																
次年度展開案等のとりまとめ																
★コ③連絡会で報告																
■エ③運営会議に報告等																
GEOC報告																
実施・開催結果報告とりまとめ																
5	中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1 PRツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開	富田	構成案等を作成		リスト以外の原稿案の作成			◆イ②会議に報告・諮問等							
		5-2 ESD/SDGsポイント「チェックリスト(仮称)」の作成	原	実施企画案等を作成	◆イ①運営会議に諮る	作成の進め方を作成	WG①で検討	リスト項目の原案作成	WG②で検討	リスト項目修正→完成案作成	PRツール掲載原稿案を作成	WG③で確認	完成	次年度の活用展開方法の検討		
		5-3 上記チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催【3回開催】	原、富田				WG①開催		WG②開催			WG③開催		◆イ③運営会議に報告等		
		5-4 ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	富田、原	開催概要案等を作成		調整・準備	ダイアログ①開催	調整・準備	ダイアログ②開催	調整・準備	ダイアログ③開催	調整・準備	ダイアログ④開催	とりまとめ		
		5-5 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】	富田、原								調整・準備	フォーラム開催	開催結果			
		5-6 全国ESDセンター主催会議、イベント等への出席、資料作成対応等	原、富田	適宜対応												
		5-7 全国ESDセンター等との連携(情報提供・交換、アンケート実施対応など)	原、富田	適宜対応												
		5-8 地域ESD拠点登録支援等	原、富田	適宜対応												

平成30年度（2018年度）業務スケジュール表

仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1 審査委員会の支援(ヒアリングの実施、審査委員会の実施補助)	富田		ヒアリング実施 →とりまとめ	審査委員会の実施										
	6-2 採択団体及び審査委員との連携(採択団体との連絡・調整、採択事業の進行管理)	富田			採択団体決定	適宜対応									
	6-3 採択団体及び審査委員との連絡会の開催【1回開催】	富田				連絡会の開催について中部地方環境事務所、審査員と確認・調整	連絡会の開催								
	6-4 採択団体の伴走支援、事業計画、月次報告、中間報告書・ロードマップ等の作成支援	富田					採択団体の伴走支援(事業計画、月次報告、中間報告書、中期ロードマップ、事業報告書等の作成支援)を適宜実施								
	6-5 環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応	富田					適宜対応								
	6-6 関連会議等(全国)への出席、資料作成対応【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	富田						キックオフ会合への出席	※その他進捗のための連絡会議(2回)への出席			中間報告書の作成	提出	外部評価委員会への出席	
	6-7 加速化事業採択案件に対する照会等対応	富田				適宜対応									
7 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	7-1 支援対象拠点1拠点への伴走支援	新海、清本		適宜対応											
	7-2 支援対象拠点との連絡会の開催、インタビュー調査等を実施【連絡会3拠点各2回開催】	新海、清本			連絡会開催	インタビュー調査等			連絡会開催	インタビュー調査等					
	7-3 プラットフォーム会議及び評価会議の開催(プラットフォーム会議は上記連絡会と兼ねる)【プラットフォーム会議2回、評価会議1回】	新海、清本			プラットフォーム会議1				プラットフォーム会議2			評価会議			
	7-4 全国事務局からの定期報告作成・提出、照会等対応	新海、清本			進捗報告書の作成		提出	進捗報告書の作成		提出	進捗報告書の作成		提出		
	7-5 成果物作成に係る作業部会への出席、成果とりまとめに係る作業対応【作業部会3回開催】	新海、清本	編集方針、成果物の構成を報告		編集会議①	中間成果作成		編集会議②	中間成果作成		編集会議③				
	7-6 成果共有会の発表者選定と資料作成対応【成果共有会1回開催】	新海、清本									発表者選定資料作成対応		成果共有会		
	7-7 アドバイザー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有	新海、清本			アドバイザー選定・推薦、情報共有										
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1 対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握【20事例】	原、清本		協働団体と業務の進め方、調査方法等の検討	対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握調査の実施										
	8-2 対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催【2回開催】	原、清本			協働団体と勉強会の開催方法等について検討	調整等	勉強会1開催	調整等	勉強会2開催						
	8-3 勉強会参加者への事後調査	原、清本						事後調査の実施							
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1 事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ・報告、資料作成対応	富田、原、清本	適宜対応(原則月1回以上の打合せを実施)												
	9-2 中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	富田、原、清本	適宜対応												
	9-3 GEOC主催の全国EPO連絡会議、その他関連会議への出席	富田、原、清本	適宜対応												
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	富田	適宜対応													
11 外部資金を活用した事業	11-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	清本	日本NPOセンターのスキームに則り、適宜実施												
	11-2 地球環境基金	清本	2018年度中に実施される基金及び申請に関する説明会の開催支援												
	11-3 愛知県コーディネート業務	清本、原	愛知県の仕様書に則り、適宜実施												

2018年度業務のアウトプット

仕様書業務項目	業務内容	直接アウトプット(事業でコントロール可能なアウトプット)			目標アウトプット(状況により変動の可能性があるアウトプット)	備考
		催事、発信	コンテンツ	システム	参加者(数)、対象者(数)など	
1 業務実施計画の作成及び公表	1-1 第5期事業目標・事業計画の作成	EPO中部HP、中部地方ESDセンターHP掲載	第5期の業務実施計画(案)			
	1-2 平成30年度業務実施計画の作成	EPO中部HP、中部地方ESDセンターHP掲載	平成30年度の業務実施計画(案)			
2 運営会議の設置・開催	2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【3回開催】	EPO中部運営会議(3回) (中部地方環境事務所会議室を想定)	資料、議事録		NPO/NGO、行政、企業等様々な主体8名の委員より適切なご意見をいただく。	
	2-2 中部ESD運営会議の開催・運営【3回開催】	E中部ESD運営会議(3回) (中部地方環境事務所会議室を想定)	資料、議事録		NPO/NGO、行政、企業等様々な主体6名の委員より適切なご意見をいただく。	
3 基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	EPO中部HP(http://www.epo-chubu.jp) 中部地方ESDセンターHP (http://chubu.esdcenter.jp/)	更新情報ページ(月2回以上)		不特定閲覧者によるアクセス(EPO 244,000件程度、ESD600件程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-2 メールマガジンの作成・発行	メール	メールマガジン		メールマガジン登録者への発信(800人程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-3 リーフレットの作成・配布		リーフレット(A4フルカラー、1,000部)		不特定多数への配布 留め置き、送付	
	3-4 照会・相談対応	面談、電話、メール	照会・相談の記録簿等		不特定多数への対応(年間EPO500件程度、内ESD130件程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-5 対話の体制の構築	地域の各種協議会や地域活動等	参加報告		地域の各種協議会や地域活動等へのEPO/ESDスタッフの参加(12回程度)	月1回程度
	3-6 施設の維持・管理	EPO中部事務所の年間を通じた維持、指定時間の開場				
4 協働取組の促進のための業務	4-1 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	EPO中部HP(http://www.epo-chubu.jp)	協働・ESD・SDGs活動支援材料(主体・場・仕組み(制度))抽出整理結果(支援情報リスト)	支援情報リストを活用したシステム SNS(プロトタイプ)		
	4-2 協働コーディネーター連絡会の開催【3回開催】	協働コーディネーター連絡会(北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度)	連絡会実施記録			
	4-3 協働コーディネーターのあり方の検討		協働コーディネーターの在り方の指針案検討結果		(協働コーディネーターの在り方の指針案)	
	4-4 協働コーディネーターのPRツールの作成		協働コーディネーターのPRツール		不特定多数への配布のため留め置き、送付	
	4-5 活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)【北陸・東海・長野から各1事例以上】	活動支援プログラム・ケーススタディ現場3地域(北陸、東海、長野)	ケーススタディ実施記録	SDGs活動評価システム(プロトタイプ)		
	4-6 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	フォーラム(北陸・東海・長野の各地域において各1回)	フォーラム開催記録		中間支援組織、活動主体、協働コーディネーター、各回20名程度	目標アウトプットは仕様書による
	4-7 協働取組促進のためのワークショップの実施【1回開催】	ワークショップ1回以上(1回4時間)	ワークショップ成果、実施記録		協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等 各回15名程度	目標アウトプットは仕様書による
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1 PRツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開		ESDセンターの取組成果・中部のESD/SDGs活動PRツール(部)			
	5-2 ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)の作成		「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)記入票	「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)		
	5-3 上記チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催【3回開催】	ワーキンググループ開催(3回程度、EPO中部オフィスを想定)	ワーキンググループ実施記録			
	5-4 ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	ダイアログ開催(北陸・東海・長野の各地域において各1回以上)	ダイアログ開催記録		関係者 各20名程度の参加	目標アウトプットは仕様書による
	5-5 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】	ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催(1回)	フォーラム開催記録		一般市民 50名程度の参加	目標アウトプットは仕様書による
	5-6 全国ESDセンター主催会議、イベント等への出席、資料作成対応等					
	5-7 全国ESDセンター等との連携(情報提供・交換、アンケート実施対応など)	全国センターとの電話や会合での情報交換	全国センター年次アンケート回答			
	5-8 地域ESD拠点登録支援等	面談、電話、メール	支援記録		ESD活動実践拠点登録新たに8拠点程度	目標アウトプットは地方センターに実績を参考に設定

2018年度業務のアウトプット

仕様書業務項目	業務内容		直接アウトプット(事業でコントロール可能なアウトプット)			目標アウトプット(状況により変動の可能性があるアウトプット)	備考
			催事、発信	コンテンツ	システム	参加者(数)、対象者(数)など	
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	審査委員会の支援(ヒアリングの実施、審査委員会の実施補助)	面談(電話)	応募団体へのヒアリング結果		審査委員会への説明	
	6-2	採択団体及び審査委員との連携(採択団体との連絡・調整、採択事業の進行管理)	同時解決事業審査委員会	議事録			
	6-3	採択団体及び審査委員との連絡会の開催【1回開催】	現場における連絡会(1回)	進捗状況共有、助言記録		採択団体、審査委員の参加による情報交換	
	6-4	採択団体の伴走支援、事業計画、月次報告、中間報告書・ロードマップ等の作成支援	伴走支援(面談、電話、メール)	作成支援による事業計画、月次報告、中間報告、中期ロードマップ、事業報告書		採択団体のプロジェクト進行	
	6-5	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応	メール、電話による照会対応				
	6-6	関連会議等(全国)への出席、資料作成対応【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	全国採択団体会合【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	依頼資料			
	6-7	加速化事業採択案件に対する照会等対応	電話、メールによる助言・進捗確認				
7 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	7-1	支援対象拠点1拠点への伴走支援	伴走による助言、対応など	伴走支援記録		対象拠点のプロジェクト進行	
	7-2	支援対象拠点との連絡会の開催、インタビュー調査等を実施【連絡会3拠点各2回開催】	支援対象拠点連絡会(2回×3地域)	調査結果		支援対象拠点(3地域)の参加による情報交換等	
	7-3	プラットフォーム会議及び評価会議の開催(プラットフォーム会議は上記連絡会と兼ねる)【プラットフォーム会議2回、評価会議1回】	プラットフォーム会議(支援対象拠点連絡会と兼ねる)2回、評議会1回			支援対象拠点(3地域のうち1地域選定)の参加による情報交換等	
	7-4	全国事務局からの定期報告作成・提出、照会等対応	電話、メールによる対応	全国事務局様式定期報告			
	7-5	成果物作成に係る作業部会への出席、成果とりまとめに係る作業対応【作業部会3回開催】	成果物作成作業部会参加(3回程度(東京都内2回、近畿地方1回))				
	7-6	成果共有会の発表者選定と資料作成対応【成果共有会1回開催】	成果共有会参加(1回)	発表者資料		対象成果発表者の発表	
	7-7	アドバイザー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有	アドバイザー・ボード会議参加			中部地域アドバイザー選定	
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握【20事例】		現状把握報告書		20事例程度の現状把握	目標アウトプットは仕様書による
	8-2	対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催【2回開催】	自治体向け勉強会(WS)を2回以上(富山県内)	WS開催記録		SDGsの理解促進に関心の高い自治体・企業の職員(10名程度想定)	目標アウトプットは仕様書による
	8-3	勉強会参加者への事後調査		職務(活動)への効果・影響、主体的学び発信への展開等、事後調査結果			
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者との定期的な打合せ・報告、資料作成対応	定期打合せ(月1回以上)	毎月の業務報告 環境省担当官の要望に応じた資料			
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	全国EPO連絡会議、その他の進行管理会議・調整会議				
	9-3	GEOC主催の全国EPO連絡会議、そのほか関連会議への出席					
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務							
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト					
	11-2	地球環境基金					
	11-3	愛知県コーディネート業務					

2018 年度業務の評価指標

個票No.3-3

平成 30 年度計画 ■ ツール 会議 取組 催事 事務

■ EPO 中部 □ ESD 活動支援センター

分類	3 基本業務		
プロジェクト	リーフレットの作成・配布		
	表番号	業務内容	
	3-3	リーフレットの作成・配布	
仕様内容	第 5 期 EPO 中部の活動等を広く周知するためのリーフレット（A 4 フルカラー、1,000 部）を作成し、情報の発信に努める。		
計画概要	7 月頃を目途に EPO 中部の第 5 期活動を掲載した携帯性の高いリーフレットを作成する。配布相手は EPO 中部および中部 ESD 活動支援センターの活動において、名刺交換とともに EPO スタッフ等が自ら組織を紹介する相手を想定する。そのため、環境の取組みに関係する行政担当者、企業 CSR 等の担当社、NPO のスタッフ、環境に興味のある個人、等が手渡されたときに、EPO 中部が「何者であるか」を直覚的にイメージできる冊子とする。		
関係者			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>【仕様・数量】 リーフレットは A4 版裏表カラーの三つ折りを想定し 1000 部を作成する。</p> <p>【構成の概要】 リーフレットの構成は以下を基本とし、おもて面に名前や基本的役割、うら面に住所や電話番号等、冊子を開かなくても一目で EPO 中部がわかるような内容を記載する。なか面については、第 5 期の活動方針等を始めとし、手渡された相手が興味を持てる内容を記載する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><おもて面></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 正式名称、略称、元機関（環境省中地方環境事務所）の併記 ● EPO 中部の役割を示すキャッチコピー <p>例）未来の地球のために持続可能な社会を目指す。 協働取組み、環境教育、普及啓発の中部地方ハブ。 EPO 中部がお手伝いいたします！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><なか面></p> <ul style="list-style-type: none"> ● EPO 中部こんな組織です（紹介） <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境省が環境活動の協働のための拠点として法に基づき設置しています ・ こんなことをしています。 <ul style="list-style-type: none"> （情報及び資料の収集、提供：紹介や相談の対応、助言：情報交換や交流機会の提供、便宜供与：活動や意欲の増進、環境教育、協働取組の推進） ・ 全国ネットワークです（GEOC と各 EPO の紹介） ● EPO 中部は 2021 年までにこんなことを目指します（第 5 期計画 2018 年 4 月～2021 年 3 月） <ul style="list-style-type: none"> 目 標：中部地方の協働・ESD・SDGs 活動支援ツール及びシステム構築と、環境活動の質・量拡充方策の確立 運営方針：○ ESD/SDGs の意義とビジョン及び EPO 中部の役割等、協働促進のための情報の継続的発信 <ul style="list-style-type: none"> ○ EPO 中部独自の協働・ESD・SDGs の活動支援ツール・システムの構築 <ol style="list-style-type: none"> ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用、 ② 「活動評価システム（活動効果や SDGs 要素を可視化するシステム）」の構築・検証、 ③ 「EPO 中部認定・協働コーディネーター」の制度化・発足 ④ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用 ○ 活動主体や中間支援組織等のニーズや課題を抽出する機会・場づくりと業務へのフィードバック ● 中部 ESD 活動支援センターを設置しています（ESD センターの紹介） <ul style="list-style-type: none"> ・ 中部 ESD 活動支援センターと（全国）ESD 活動支援センター、中部地域 ESD 拠点の紹介 ・ 中部 ESD 活動支援センターの役割 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><うら面></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 住所、電話番号、メールアドレス、Web アドレス ● 交通アクセス、所在地の地図 </div> <p>（ページ割り付け 参考：EPO 九州）</p>		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
		リーフレット（A 4 フルカラー、1,000 部）	参加者（数）、対象者（数） 不特定多数への配布 留め置き、送付

個票No.4-1

平成30年度計画 ツール 会議 ■取組 催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用			
	表番号	業務内容		
	4-1	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用		
仕様内容	<p>中部管内7県における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながる材料（主体・場・仕組み（制度））の抽出と整理を行い、それらに関する情報・素材等を収集し、リスト化する。</p> <p>また、取組状況やイベント告知等を迅速に、かつ関係者以外にも広く認知・周知できるよう、SNS の活用を含めた情報発信の方法を検討し、その結果を踏まえて効果的な情報発信を実施する。</p>			
計画概要	<p>ネット上での発信を想定し、あらかじめ情報の効果的活用のために協働・ESD・SDGs 活動の収集情報の種類等、構成案等を作成する。それに基づきデータを収集・整理（リスト化）し閲覧できる情報カタログを作成する。また運営会議等に経過を報告するとともに収集情報の活用方法・発信方法等の検討を行う。</p>			
関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ EPO 中部 ・ 中間支援組織 ・ 活動主体 など 			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>上記の情報リストを WEB 等で公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来的には検索等可能なマッチングのためのデータ集づくりを目指す。 ・ EPO 中部が照会することに適切な活動主体・場・仕組みのセグメント等を整理し、具体的な主体・場・仕組みについて収集する <p>【例】 中部7県の自治体主催・環境イベント（開催概要や出展条件等）のリスト化 各県の環境学習支援事業や関連施設等の整理 など</p>			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	EPO 中部 HP (http://www.epo-chubu.jp)	協働・ESD・SDGs 活動支援材料（主体・場・仕組み（制度））抽出整理結果（支援情報リスト）	支援情報リストを活用したシステム SNS（プロトタイプ）	

個票No.4-2、4-3

平成30年度計画 ツール 会議 ■取組 ■催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	協働コーディネーター連絡会の開催・協働コーディネーターのあり方の検討			
	表番号	業務内容		
	4-2	協働コーディネーター連絡会の開催		
	4-3	協働コーディネーターのあり方の検討		
仕様内容	協働コーディネーターの位置付けと地域における活動基盤形成等の検討に資するため、協働コーディネーター連絡会を開催する（北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度想定）。連絡会には、協働コーディネーターのほか、EPO 中部運営委員の参画（各2名程度）を得ることとし、幅広い知見から意見交換が行われるよう工夫すること。			
計画概要	<p>運営会議及びその委員の助言のもと、協働コーディネーターの在り方について議論するとともに、将来的に活動事業やコーディネーター認定手続き等を検討する基礎的な研究を行う。</p> <p>本年度は、環境省の窓口機関であるEPO 中部の「協働コーディネーター」としての位置づけ、あり方などについて、運営会議や協働コーディネーター（連絡会）と共に検討し、対外的な説明も可能な基本事項としての整理、明確化に取り組む。このため連絡会における議論で検討するとともに「中部の協働コーディネーターの在り方の指針（案）」を作成する。</p> <p>（平成30年度の検討結果をもとに、次年度以降はその具体化に必要な原案づくりや手続き等に取り組む予定。）</p>			
関係者	<p>・協働コーディネーター</p> <p>・環境省中部環境パートナーシップオフィス運営会議 委員 （地理的条件を踏まえ以下の案から各地域2名に依頼）</p> <p>【東海地域開催】 日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授 千頭 聡（愛知） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)名古屋本部 執行役員 加藤 義人（愛知） NPO 法人市民社会研究所 代表理事（四日市大学教授） 松井 真理子（三重）</p> <p>【長野地域開催】 NPO 法人まちづくりスポット 専務理事 田辺 友也（岐阜） NPO 法人長野県NPOセンター 事務局長 山室 秀俊（長野）</p> <p>【北陸地域開催】 石川地域づくり協会 専任コーディネーター 森山 奈美（石川） 金沢星稜大学 経済学部 教授 新 広昭（石川） のと共栄信用金庫（H27 協働コーディネーター）顧問 中里 茂（石川）</p>			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>協働コーディネーター連絡会の開催を通じた「協働コーディネーターのあり方」の検討のイメージ</p> <p>5月 第1回 EPO 中部運営会議／実施計画の報告 > 運営会議の意見を元に連絡会における論点を整理</p> <p>6月 第①回コーディネーター連絡会開催（長野）／「あり方」について実情と課題を議論 > 連絡会の議論を踏まえて「協働コーディネーターの在り方の指針（案）」骨子を作成</p> <p>9月 第2回 EPO 中部運営会議／骨子を報告 > 運営会議の意見を踏まえ連絡会議における骨子議論の論点を整理</p> <p>10月 第②回コーディネーター連絡会開催（北陸）／骨子内容の検討</p> <p>12月～1月 第③回コーディネーター連絡会開催（東海）／骨子内容の検討 > 協働コーディネーターの在り方の指針（案）検討結果のとりまとめ</p> <p>2月 第3回 EPO 中部運営会議／検討結果の報告</p>			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	協働コーディネーター連絡会（北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度想定）	連絡会実施記録 協働コーディネーターの在り方の指針（案）検討結果		（協働コーディネーターの在り方の指針案）

個票No.4-4

平成30年度計画 ■ツール 会議 取組 催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	協働コーディネーターのPRツールの作成		
	表番号	業務内容	
	4-4	協働コーディネーターのPRツールの作成	
仕様内容	第4期に選定された協働コーディネーターのPR及び活動事例等を紹介するためのコンテンツ・ツールを作成し、公開する。		
計画概要	<p>様々な活動団体が参考とできる協働コーディネーターを紹介するコンテンツ（専門性や実績等を明示）を作成・公開し、周知を図る。</p> <p>このため、各コーディネーターの協力を得て、個人別の専門性や実績等を収集整理するとともに、3地域（東海、長野、北陸）についての協働取組の事例を選定する。</p> <p>選定した3つの事例についてはPRツールの記事としてまとめるとともに、「4-5 活動評価システムの構築に向けた検証」のケーススタディとする。</p>		
関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーター ・事例の対象となる取組み団体・個人 		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>【コンテンツ作成フローのイメージ】</p> <p>5月 第1回 EPO 中部運営会議 > 構成概要、コーディネーター情報提供依頼等を作成</p> <p>6月 第①回コーディネーター連絡会開催（長野）／コーディネーターに情報提供の依頼 > コーディネーターへのヒアリング取材・ケーススタディ取材→原稿作成</p> <p>9月 第2回 EPO 中部運営会議／経過及び原稿案を報告</p> <p>10月 第②回コーディネーター連絡会開催（北陸）／経過及び原稿案を報告</p> <p>12月～1月 修正・印刷→完成・公開</p> <p>【PRツール内容のイメージ】</p> <p>協働コーディネーターの存在、活用の実例などを活動主体等に紹介。 （コーディネーター連絡会の場で意見を伺いながら作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EPO 中部・協働コーディネーター21名の紹介 ・第4期でのコーディネーター参画事例の紹介 ・ケーススタディでの参画事例の紹介（活動評価システムづくりの予告的紹介） 		
備考			
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
		協働コーディネーターのPRツール	参加者（数）、対象者（数） PRツールの不特定多数への配布のため留め置き、送付

個票No.4-5

平成 30 年度計画 ツール 会議 ■取組 催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	活動評価システムの構築に向けた検証（協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施）		
	表番号	業務内容	
	4-5	活動評価システムの構築に向けた検証（協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施）	
仕様内容	協働・ESD・SDGs に関連する活動効果や活動における SDGs 要素を可視化する活動評価システムの構築に向けて、協働コーディネーターを活用したケーススタディ（協働コーディネーター参画による活動支援プログラム）を実施し、要素・材料の抽出と整理を行う。なお、ケーススタディの事例は、北陸・東海・長野の各地域から 1 事例以上選定すること。		
計画概要	協働・SDGs 活動評価システム構築のための事例・素材の集積を目的に、具体的なケーススタディとなる事例を協働コーディネーターからの紹介により北陸・東海・長野の各地域から各 1 事例を選定する。協働コーディネーター参画による活動支援プログラムとして対象事業を明示化する議論システムを活動評価のシステムとして構築し、ケーススタディを実施してシステムを検証する。検証の結果コーディネーターの専門家としての視点、活動者としての目線から得られる評価システム構築に向けた検討材料の抽出・整理を行う。		
関係者	協働コーディネーター、ケーススタディの対象となる取組み団体・個人		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>ケーススタディにおいては、中部大学中部高等学術研究所が考案した「流域活動 SD 分析法」を元にした汎用型の「環境活動 SD 評価分析法」を構築し検証する。既存資料からキーワードを用いて活動要素を抽出し「SD 分析チャート」上で関連を可視化するとともに、活動当事者との熟議により活動コンセプトを言語化して活動意義を明示する「持続可能性ものがたり」（SD ストーリー）を作成する。そして団体の活動の中で参加者に SD ストーリーを伝えてもらうことにより、効率的な ESD 展開を図るシステムを構築する。</p> <p>具体的には、評価分析で 4 つの過程を踏むことにより、客観的、合理的に環境活動の可視化を行う。その際、熟議の場として、客観性の向上と、活動当事者との合意形成を目的とした 2 回のワークショップを組み込む。また当事者が SDGs の評価結果として活動意義を参加者に説明するための「活動が持続可能性に貢献している物語（SD ストーリー）」を作成する。これらを合わせて ESD 教材とし、活動当事者が参加者に対して説明する際の資料とし、関係者のみならず、一般参加の市民や子供たちに持続可能性における活動意義を伝えることで ESD 展開を効率的に行う。</p>		
	<p>使用する可視化ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析検討シート 分析構造チャート SDストーリー様式 		
	<p>SD 分析チャート</p> <p>持続可能性物語（SD ストーリー）</p>		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	活動支援プログラム・ケーススタディ現場 3 地域（北陸、東海、長野）	ケーススタディ実施記録	SDGs 活動評価システム（プロトタイプ）
			参加者（数）、対象者（数）

個票No. 4-6

平成30年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催			
	表番号	業務内容		
	4-6	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催		
仕様内容	中間支援組織や活動主体を対象に、協働コーディネーターとの交流と意見交換の場とすることを目的としたフォーラムを開催する（北陸・東海・長野の各地域において各1回、20名程度、3時間程度想定）。			
計画概要	「協働の取組みによる環境保全活動の推進とはどうあるべきか」をテーマに、EPOや協働コーディネーターの中間支援組織や活動主体との連携のありかた、その時の協働コーディネーターの役割について意見交換を行うとともに議論を深める。活動評価システム構築のケーススタディを事例とした議論を通じて、地域における環境保全活動における課題を抽出し、当面の段階での重要性、優先度、コントロール可能性で分類するなど、効果的な取組みのありかたを検討する。			
関係者	○参加者 EPO 中部、中間支援組織、環境活動主体（市民団体やNPO等）、協働コーディネーター、行政など			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	EPO 中部：協働取組みフォーラム「協働の取組みによる環境保全活動の推進とはどうあるべきか」（北陸フォーラム、信州フォーラム、東海フォーラム）各1回 開催時期 8月、10月、1月 【プログラム案】全180分 セッション1：グループ交流会（参加者を1グループ5人程度に構成） ・参加者の自己紹介 ・協働コーディネーターによる協働取組み事例紹介などのグループ交流 セッション2：活動評価システム構築におけるケーススタディの紹介 ・活動評価システム構築計画と現状の説明（開催時点の報告） ・それぞれの地域におけるケーススタディの取組みについての紹介 ・取組みの課題について抽出、全体ディスカッション セッション3：グループディスカッション～課題解決に向けて協働の取組みでできること ・抽出された課題について、協働で解決していく具体的方法の在り方についてグループ討議 ・発表用のポスターをその場で作成 セッション4：発表と全体ディスカッション（グループ持ち時間各10分） ・各グループの発表とその内容についての質疑 ・全体のまとめ			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	フォーラム（北陸・東海・長野の各地域において各1回）	フォーラム開催記録		中間支援組織、活動主体、協働コーディネーター、各回20名程度

個票No.4-7

平成30年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	協働取組促進のためのワークショップの実施			
	表番号	業務内容		
	4-7	協働取組促進のためのワークショップの実施		
仕様内容	地域において協働による取組を促すため、協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等を対象とするワークショップを1回以上（1回4時間、15名程度、中部地方環境事務所会議室を想定）実施する。ワークショップは、講師（大学教授級、東京1名想定）の参加と中部地方環境事務所が手配する冊子「環境保全からの政策協働ガイド～協働をすすめたい行政職員に向けて～（制作 環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業成果とりまとめタスクフォース）」の活用を必須とし、実施後2週間以内に結果をとりまとめ、事務所担当官及びGEOCに報告する。			
計画概要	行政にとって「市民の環境活動の促進」環境施策の推進は重要である。そのために「協働の取組み」が不可欠とされている。そこで主として行政担当者に対し、これら協働の在り方を認識してもらう講義を実施するとともに、あらかじめ課題設定した仮想の環境施策について具体的な協働の方法を検討するワークショップを実施する。これらを通じて行政の環境施策について市民（企業、NPO等含む）が効果的に協働するためのアイデアを共有する。			
関係者	<p>○参加者 協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等</p> <p>○講師 佐藤 真久 東京都市大学教授（協働取組加速化事業 アドバイザリー委員長） もしくは 島岡 未来子 早稲田大学研究戦略センター准教授（協働取組加速化事業 アドバイザリー委員） （講師人選については案であり、本人の承諾を得たものではない）</p>			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>EPO 中部・協働取組ワークショップ～協働取組で環境施策をバージョンアップ</p> <p>開催時期：1月 場所：中部地方環境事務所会議室 テキスト：「環境保全からの政策協働ガイド～協働をすすめたい行政職員に向けて～」</p> <p>【プログラム案】全240分</p> <p>●講義 セッション1：講義 環境政策における協働取組の在り方（60分） 講師による講義、協働取組とは何か、その在り方、についての認識を深める。</p> <p>●グループワークショップ（各WSセッションは行政が主導し、企業やNPOは批評する立場で進める） セッション2：グループワークショップ1＜効果的な協働には何が必要か＞（60分） 「市民の環境活動の促進」を目的とした環境施策における協働相手である企業やNPO/NGOの立場を通じての協働促進の方法、条件（モチベーションを含む）やインセンティブの抽出を目的とした議論を行い発表する。 セッション3：グループワークショップ2＜効果的な市民協働の段取りを考える＞（60分） 上を踏まえて、行政がどのような段取りで施策を具体化すれば「協働」が効果的に促進されるかをディスカッションし、仮想事業における協働取組フローチャートを作成する。 セッション4：グループワークショップ3＜出来上がった段取りを試してみる＞ 出来上がったフローチャートを別グループのメンバーに検討してもらい議論を深め、協働の在り方をまとめる。</p>			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	ワークショップ1回以上（1回4時間）	ワークショップ成果、実施記録		協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等 各回15名程度

個票No.5-1

平成30年度計画 ■ ツール 会議 取組 催事 事務

□ EPO 中部 ■ ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	ESD センターの取組み成果と中部の ESD/SDGs 活動の PR ツール		
	表番号	業務内容	
	5-1	PR ツール(センターの取組み成果及び中部の ESD/SDGs 活動の PR)作成公開	
仕様内容	中部地方 ESD センターの取組み成果及び中部の ESD/SDGs 活動の周知を目的とした PR ツールを作成・公開する。同ツールには「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト(仮称)を掲載する。		
計画概要	中部 ESD センターと地域 ESD 拠点等の関係主体が活用する、ESD 及び SDGs の活動事例と関連制度の仕組みやセンターの役割等を紹介する PR ツールを作成する。 PR ツールには、本業務項目(6)「同時解決事業」における地域支援事務局業務、同(7)「環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援業務」、同(8)「環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の業務も事例もしくはセンターの成果として掲載する。		
関係者			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>○リーフレットは A3 版裏表の二つ折りを想定し、2 月頃を目途に〇〇部を作成する。</p> <p>○デザインは全国センターと共通のコンセプトとして内容は以下のものを盛り込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESD 活動支援センターの役割と組織 ・ 登録されている中部の ESD 拠点とその紹介 ・ 平成 30 年度の ESD 活動支援センターの取組み 「同時解決事業」における地域支援事務局業務の進捗・成果 「環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援業務」の進捗・成果 「環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の進捗・成果 ・ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト(仮称)の活用促進 あなたもすでにやっている! ESD の取組みを SDGs で確認しよう! <p>PR ツールデザインコンセプトイメージ(参考:全国センターパンフレットデザインコンセプト)</p> 		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
		ESD センターの取組み成果・中部の ESD/SDGs 活動 PR ツール(部)	参加者(数)、対象者(数)

個票No.5-2、5-3

平成30年度計画 ■ツール ■会議 取組 催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務																																																								
プロジェクト	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）作成とワーキンググループ開催																																																								
	表番号	業務内容																																																							
	5-2	ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）作成																																																							
	5-3	上記チェックリスト作成のための専門家（3名程度）によるワーキンググループ開催																																																							
仕様内容	中部地方ESDセンターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動の周知を目的としたPRツールには「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）を掲載し、ESD活動実践者等の活動の可視化を促進する。PRツール作成のため、専門家（3名想定）を含めたワーキンググループを開催する（3回程度、EPO中部オフィスを想定）。																																																								
計画概要	<p>○「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）</p> <p>ESD活動実施団体が自らの活動を振り返り、チェックして、SDGsに対する立ち位置を確認できるアンケート形式の記入票を想定する。活動主体自らが記入することにより、ESD活動の意義を再確認することで効果的な活動の方向性を見出すとともに、自律性、関係性、有能感の刺激する動機づけにより、活動意欲の増進を促す。</p> <p>○ワーキンググループの開催</p> <p>ESDとSDGsの研究に携わる研究機関の専門家に依頼する。現場に即した具体的な議論を行っていただくこととし、実用性の高いツールとシステムの構築を目指す。</p>																																																								
関係者	ワーキンググループメンバー案（運営委員会メンバーの関係者等から選定） 例）中部大学国際ESDセンター 准教授：古澤礼太、講師：景浦順子、研究員：川村信也																																																								
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>○「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）イメージ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ESD活動の概要</p> <p>活動者・団体名： ○○水辺の会 環境守(かんきょうまもる)</p> <p>活動内容 ○○側の水辺観察活動を通じて参加者に自然保護の大切さを考えてもらう活動を行っている。</p> <p>ESD活動分野とSDGsへの貢献</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>SDGs 17の目標に対応する活動の現状と今後の方向性</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>17の目標</th> <th>活動の現状</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1. 貧困撲滅</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2. 飢餓・食料</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3. 健康・福祉</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4. 教育</td><td>小学生に参加してもらっている</td><td>高校生にリーダーになってもらいたい</td></tr> <tr><td>5. ジェンダー</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6. 水利用</td><td>水辺の保護の重要を感じてもらっている</td><td></td></tr> <tr><td>7. エネルギー</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8. 経済雇用</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9. インフラ等</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10. 国内外公正</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11. 都市</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12. 生産・消費</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13. 気候変動</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14. 海洋・海洋資源</td><td>水辺周りの自然の観察</td><td>海につながっていると感じてほしい</td></tr> <tr><td>15. 陸域自然</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16. 平和</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>17. パートナーシップ</td><td>○○小学校と連携して観察会を実施</td><td>今後○○高校と連携したい</td></tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>○ワーキンググループの開催イメージ</p> <p>第1回（7月頃）：作成目的、作成イメージの共有 第2回（9月頃）：プロトタイプ提示、内容吟味 第3回（12月頃）：原稿案・利用システムの確認、活用方法の検討</p>			17の目標	活動の現状	今後の方向性	1. 貧困撲滅			2. 飢餓・食料			3. 健康・福祉			4. 教育	小学生に参加してもらっている	高校生にリーダーになってもらいたい	5. ジェンダー			6. 水利用	水辺の保護の重要を感じてもらっている		7. エネルギー			8. 経済雇用			9. インフラ等			10. 国内外公正			11. 都市			12. 生産・消費			13. 気候変動			14. 海洋・海洋資源	水辺周りの自然の観察	海につながっていると感じてほしい	15. 陸域自然			16. 平和			17. パートナーシップ	○○小学校と連携して観察会を実施	今後○○高校と連携したい
17の目標	活動の現状	今後の方向性																																																							
1. 貧困撲滅																																																									
2. 飢餓・食料																																																									
3. 健康・福祉																																																									
4. 教育	小学生に参加してもらっている	高校生にリーダーになってもらいたい																																																							
5. ジェンダー																																																									
6. 水利用	水辺の保護の重要を感じてもらっている																																																								
7. エネルギー																																																									
8. 経済雇用																																																									
9. インフラ等																																																									
10. 国内外公正																																																									
11. 都市																																																									
12. 生産・消費																																																									
13. 気候変動																																																									
14. 海洋・海洋資源	水辺周りの自然の観察	海につながっていると感じてほしい																																																							
15. 陸域自然																																																									
16. 平和																																																									
17. パートナーシップ	○○小学校と連携して観察会を実施	今後○○高校と連携したい																																																							
備考	次年度からの本格運用に向け、ESD取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。																																																								
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット																																																						
	催事、発信	コンテンツ	システム																																																						
	ワーキンググループ開催（3回程度、EPO中部オフィスを想定）	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）記入票 ワーキンググループ実施記録	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）	参加者（数）、対象者（数）																																																					

個票No.5-4

平成30年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催		
	表番号	業務内容	
	5-4	ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催	
仕様内容	中部地域における ESD 推進ネットワークの基盤形成・人材育成に資するためのダイアログを開催する（北陸・東海・長野の各地域において各1回以上、各20名程度、半日程度想定）。ダイアログは多様なジャンルの ESD 活動実践者の学びの場・交流の場となるようテーマ設定し、各回ともゲスト（大学教授級、2名程度想定）を招聘する。		
計画概要	5-2「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）の作成、及びそのための5-3 専門家によるワーキンググループ開催、の実施内容を題材に、ワーキンググループ関係者による検討内容の報告、ポイントチェックリストの使い方に関するワークショップを通じて、ESD 推進の在り方検討するダイアログを実施する。		
関係者	<p>○参加者 協働コーディネーター、地域の ESD に関わる個人、団体、教育機関、行政など</p> <p>○ゲスト（北陸地域）案 金沢大学 松本 謙一 教授（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD 推進コーディネーター） 金沢大学 加藤 隆弘 准教授（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD 推進コーディネーター）</p> <p>○ゲスト（信州地域）案 信州大学 渡辺 隆一 教育学部特任教授（信州 ESD コンソーシアム） 信州大学 水谷 瑞樹 教育学部助教（信州 ESD コンソーシアム）</p> <p>○ゲスト（東海地域）案 愛知教育大学 大鹿 聖公 教授（アドバイザー・ボード会議へ推薦予定） 中部大学 古澤 礼太 准教授（中部大学中部高等学術研究所国際 ESD センター、中部 ESD 拠点事務局）</p> <p>（ゲスト人選については案であり、本人の承諾を得たものではない）</p>		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>SDGs に向けた ESD 推進のためのダイアログ（in 北陸、in 信州、in 東海）各1回 開催時期 8月、10月、1月</p> <p>【プログラム案】</p> <p>セッション1：話題提供 2 題 地域における ESD 推進の在り方 ・ゲスト1による話題提供 ・ゲスト2による話題提供</p> <p>セッション2：「ESD/SDGs ポイント」チェックリストによる ESD 展開ワークショップ ・「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの作成のためのワーキンググループ検討内容の報告 ・「ESD/SDGs ポイント」チェックリストを活用した ESD 展開のためのグループワークショップ</p> <p>セッション3：ダイアログのまとめ ・グループワークショップ結果の発表、全体討論 ・ゲストによる講評</p>		
備考			
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	ダイアログ開催（北陸・東海・長野の各地域において各1回以上、半日程度想定）	ダイアログ開催記録	

個票No.5-5

平成30年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催		
	表番号	業務内容	
	5-5	ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催	
仕様内容	地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、ESD 推進ネットワーク地域フォーラムを開催する（1回、半日程度、50名程度、名古屋市内想定）。開催に当たっては、多様なジャンルからゲスト（大学教授級、3名程度想定）を招聘する。		
計画概要	5-4 ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催など、中部 ESD 活動支援センターの今年度の成果を報告するとともに、専門家による講評をいただき、ESD 推進に関わる多様な主体の参加のWSによる議論を深め、将来に向けての ESD 推進についての展開のビジョンを共有する。		
関係者	<p>○参加者 協働コーディネーター、地域の ESD に関わる個人、団体、教育機関、行政など</p> <p>○ゲスト 名古屋市立大学 伊藤恭彦 教授・副学長（中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議座長） 金沢大学 松本 謙一 教授（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD 推進コーディネーター） 信州大学 渡辺 隆一 教育学部特任教授（信州 ESD コンソーシアム） 愛知教育大学 大鹿 聖公 教授（アドバイザー・ボード会議へ推薦予定） （ゲスト人選については案であり、本人の承諾を得たものではない）</p>		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>SDGs に向けた ESD の推進ビジョンを語ろう！中部地方 ESD フォーラム 2019（仮称） 名古屋市内開催（3月）</p> <p>【プログラム案】</p> <p>セッション1：中部 ESD 活動支援センターが取り組んできたこと ・中部 ESD 活動支援センター担当スタッフによる平成30年度の成果報告 ・ゲスト3名による講評</p> <p>セッション2：参加者の ESD への思いを表現しよう ・将来に向けた ESD 推進のビジョンをグループでディスカッション ・グループごとにディスカッション内容を発表</p> <p>セッション3：将来に向けた ESD 推進のビジョンを語ろう ・ゲスト3名からなるパネルディスカッション ・フロアを加えた全体討論</p>		
備考			
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	ESD 推進ネットワーク地域フォーラム開催（1回）	フォーラム開催記録	参加者（数）、対象者（数） 一般市民等 50名程度の参加